

研究分科会の目的

建築のエネルギー消費量データの取得と利活用を通じて、太陽光発電などの再生可能なエネルギー・蓄電池の導入による省エネルギー・低炭素建築モデルの構築



座長	李 海峰
所属	佐賀大学理工学部
専門分野	都市環境工学
得意な分野	(例) ● 各種センサーを用いるエネルギー消費量の可視化 ● エネルギー消費量の可視化による省エネ・コスト削減 ● 企業との連携による省エネ診断、省エネ製品の開発と技術導入の支援

企業の皆様へのメッセージ

この分科会の研究成果を活用し、佐賀県における住宅の省エネ・コスト削減の提案を行う。

例えば、太陽光発電・蓄電池の有効利用についてお気軽にご連絡ください。

特に住宅の分野に関しては私どもも興味がありますので是非お気軽にご相談ください。

連絡先 : haifeng@cc.saga-u.ac.jp / 0952-28-8875

建築等のビッグデータ利活用研究分科会の取組紹介

①背景・課題等

- 日本の家庭部門のCO₂排出量は全体の15%を占めている
- 住宅の年間CO₂排出量は世帯あたり2.57トン(戸建住宅3.25, 集合住宅:1.82トン)
- 佐賀県の戸建住宅は全住宅棟数の93.6%(うち木造88.4%)を占め, 戸建住宅の低炭素化が鍵

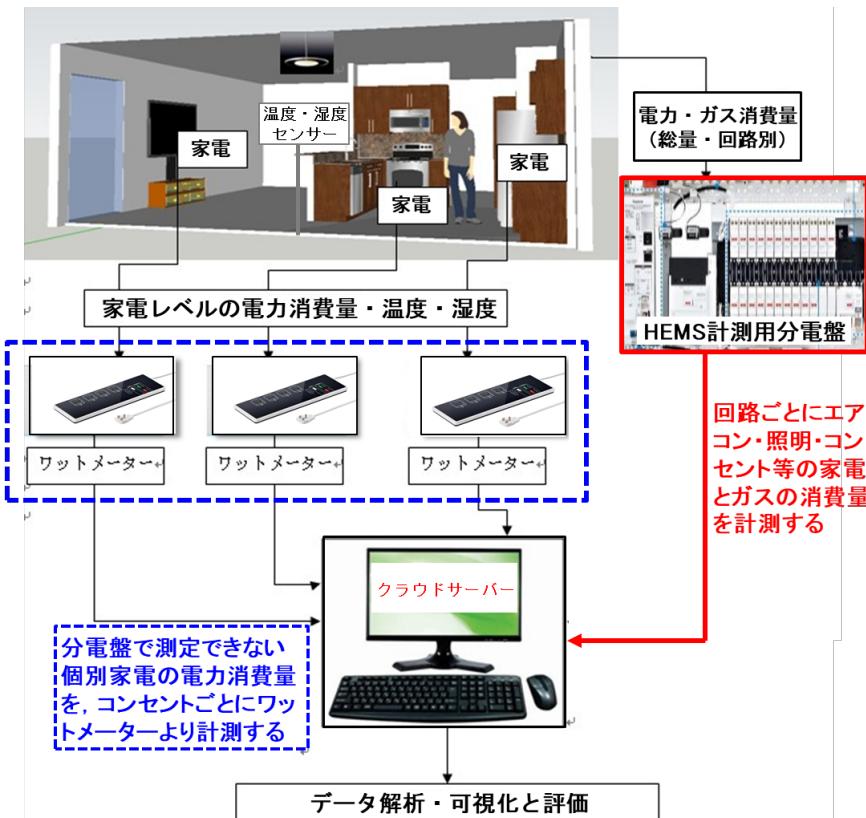
②研究開発内容等

- 住宅エネルギー消費量計測システムの開発
- エネルギー消費量の可視化による省エネ・コスト削減の提案
- 太陽光発電・蓄電池の導入による低炭素住宅モデルの構築
- 企業との連携による省エネ診断, 省エネ製品の開発と技術導入の支援

③期待される効果等

- 家電レベルのエネルギー消費量の削減
- 太陽光発電・蓄電池の導入による低炭素住宅の推進

住宅エネルギー消費量計測システムの構築



出典: 佐賀大学

■研究経過等

R2 A邸の実証研究開始

R3 B邸の実証研究開始

R4 C邸の実証研究開始

R5 データ解析

R6 省エネ提案